

森本防衛大臣が オスフレイ岩国陸揚げで 岩国市長・山口県知事と会談



森本 敏 防衛大臣と岩国市 福田良彦市長との会談



山口県 二井関成知事と森本 敏 防衛大臣との会談



岩国市での会談

森本防衛大臣は、米政府は墜落事故の調査結果が日本政府に提供され、飛行運用の安全性が再確認されるまでの間、日本におけるいかなるMV-22の飛行運用も控えることやこの調査結果は8月に提供される見込みであることなどを説明し、理解を求めました。



山口県での会談



7月1日、森本防衛大臣は、岩国市と山口県への訪問に先立ち、米海兵隊岩国航空基地を視察しました。

■ ■ MV-22オスプレイ陸揚げ ■ ■

7月23日早朝、MV-22オスプレイ12機を積載した民間貨物船グリーンリッジが、岩国飛行場の港湾施設に接岸し、順次、オスプレイが陸揚げされました。その後、オスプレイは、けん引され港湾施設から基地内の駐機場に移動しました。

駐機場に移動したオスプレイは、整備員等により、エンジンを始動させたりローターを回転させるなどの必要な整備や作業が実施されますが、米海兵隊は、オスプレイの墜落事故の調査結果が、日本政府に提供され、飛行運用の安全性が確認されるまで、日本でのMV-22オスプレイの飛行運用を自粛するとしています。

(写真提供: 米海兵隊岩国航空基地報道部)



貨物船から陸揚げ



けん引車により駐機場に移動



駐機場に移動したオスプレイ



神風防衛大臣政務官が オスプレイ岩国陸揚げで山口県知事・岩国市長等と会談

神風英男防衛大臣政務官は6月11日、岩国市 福田良彦市長と山口県 二井関成知事、山口県議会 柳居俊学議長らと相次いで面談し、MV-22オスプレイを沖縄県の普天間飛行場に配備する前に岩国飛行場に一時的に陸揚げする方針を説明し、理解を求めました。



神風政務官と福田市長との会談

MV-22については、沖縄の現状を踏まえ、より安全、円滑に沖縄への配備を実施するという観点から、日米間で配備方法を検討した結果、船舶で輸送・陸揚げし、機体整備及び若干の準備飛行を行うことを考慮すれば、港湾施設を有する岩国飛行場は、他の施設に比べて、より安全・円滑に陸揚げが可能と判断されました。

神風政務官は、岩国への陸揚げ等について、沖縄の不安解消にもつながるものであり、同機の本モロッコでの事故について、機械的な不具合はなかったとする米側の調査結果などを伝え、理解を求めました。



二井知事と神風政務官との会談



神風政務官と柳居議長(右)との会談

“オスプレイ陸揚げで” 辰己局長が岩国市長・広島県知事と会談

7月20日、中国四国防衛局 辰己昌良局長は、岩国市を訪問し福田良彦市長に、岩国飛行場へのMV-22オスプレイの到着及び陸揚げについて、米側からの情報によれば、7月23日に予定されていることや、陸揚げ後、地上におけるエンジンの調整などを行うことはあり得るが、米国政府は、墜落事故の調査結果が日本政府に提供され、飛行運用の安全性が再確認されるまでの間、日本におけるいかなるMV-22の飛行運用も控えるとしていることを説明し、理解を求めました。

また、7月24日、辰己局長は、広島県庁を訪問し湯崎知事にもMV-22オスプレイの到着及び陸揚げについて説明し、理解を求めました。

岩国市 福田市長との会談



福田市長と辰己局長

(写真提供: 読売新聞西部本社写真部)

福田市長は、オスプレイの岩国基地への陸揚げは、安全性が確認される前の先行搬入は行わないよう、再三政府に要請し、地元の意向を踏まえた対応を期待していたが、期待が裏切られ、切実な思いが届かなかったことは大変遺憾。先行搬入が強行されれば、日米安保体制への影響も懸念され、これまでの国と地元との信頼関係が崩れかねないと憂慮しているとコメントを発表しました。

広島県 湯崎知事との会談



湯崎知事が辰己局長に抗議文を手交



辰己局長(左)と湯崎知事(中央)

7月24日、湯崎知事はオスプレイの安全性が確認されず、県民の理解が得られないまま岩国への陸揚げが強行されたことは、誠に遺憾である。早急にオスプレイの安全性について、詳細な説明を行うこと、安全性が確認されるまで試験飛行を行わないことなどとする、森本防衛大臣あての抗議文を辰己局長に手交しました。

■ ■ 第19回防衛

7月11日、中国四国防衛局は、香川県高松市のサンポートホール高松において、「自衛隊による国際協力活動について」をテーマに、第19回防衛セミナーを開催しました。

高松での開催は、平成19年11月以来2回目であり、今回は、香川県、高松市、四国新聞社、独立行政法人国際協力機構四国支部、香川県防衛協会の後援を得て開催し、当日は、あいにくの天気にもかかわらず、約150名の方が来場しました。



辰己局長

セミナーでは、まずはじめに、中国四国防衛局 辰己昌良局長から、1991年のペルシャでの機雷掃海により、自衛隊の国際協力が開始されて以来20年が経過し、これまで防衛省・自衛隊が取り組んできた数多くの国際平和協力活動の意義、成果などについて、基調講演を行いました。

次に、平成23年6月から約4ヶ月間、第7次派遣海賊対処行動航空隊司令として派遣された、海上自衛隊徳島教育航空群司令部首席幕僚 江藤裕之1等海佐から「ソマリア・アデン湾における海賊対処」について、講演しました。



江藤1等海佐

セミナーを開催 ■ ■



杉本1等陸佐

続いて、平成17年1月から約7ヶ月間、第3次イラク復興業務支援隊第3科長として派遣された、自衛隊高知地方協力本部長 杉本嘉章1等陸佐から「イラク・サマーワでの自衛隊の活動」について、講演しました。

各講師は、写真や動画を用いながら、分かりやすく、体験に基づいた講演を行い、講演の後は、来場者との質疑応答を行いました。



質疑応答の様子

来場者は、各講演を熱心に聴講し、セミナー終了後のアンケートでは、「現地での自衛隊の支援活動や生活の様子、苦労した点などが、非常にリアルで分かりやすかった。」との感想が多く寄せられました。

また、来場した学生からは、「自分も将来そのような活動に参加したいと改めて感じた。」との感想も寄せられ、今回のセミナーが、自衛隊の国際協力活動に理解を深めるとともに、感動してもらうよい機会になりました。

会場のホワイエでは、東日本大震災における自衛隊の捜索、救難活動状況や米軍の災害支援作戦「オペレーショントモダチ」の活動状況の写真を展示し、多くの来場者が、熱心に見入っていました。



辰己局長が広島大学大学院で 安全保障環境と防衛政策を講義

6月20日、中国四国防衛局 辰己昌良局長は、広島大学の学生を対象に東広島キャンパスと広島市内にある東千田キャンパスにおいて、それぞれ、午後と夜間に約90分間の講義を行いました。



東広島キャンパスの講義(上、右)

講義には、午後と夜間合わせて約190名の学生が出席し、辰己局長から「わが国周辺の安全保障環境と防衛政策」について、防衛白書の図画等を活用しながら講話を行いました。

出席した学生は、一般の講義では聴くことのできない、防衛政策の現場からの講話とあって、熱心に聴講していました。



東千田キャンパスの講義(下)



懇談会の様子

《講義後の学生からのレスポンス》

- ・中国、北朝鮮、ロシアの状況と我が国周辺の安全保障環境が良く分かった。
- ・断片的な情報ではなく、安全保障環境全般の見識を深めることができた。
- ・自衛隊の国際平和協力活動が、多方面で行われていることに驚いた。
- ・同活動は他国から信頼を確保するためにも重要で積極的に参加すべき。
- ・日米安保体制による『抑止力』が理解できた。
- ・動的防衛力は、現在の日本に求められている要素など多くの意見とともに質問等も寄せられた。

講義当日は、時間の制約もあり質問等に十分な対応ができなかったことから、辰己局長は、7月6日、改めて東広島キャンパスを訪問し、約80名の学生との懇談会に出席し、約90分間、学生からの質問に回答するなど丁寧に対応しました。

今回の講義と懇談会が、若年層の防衛省・自衛隊に対する理解を深めてもらうよい機会になったのではないかと考えています。

■ ■ 愛媛県国民保護共同図上訓練に参加 ■ ■

武力攻撃事態等において、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、国民保護措置の実施にかかわる連携要領について、各省庁や地方公共団体などと共同で調整を実施することが重要です。

当局は、内閣官房や管内各県が実施する国民保護訓練に、積極的に参加、このような取組を継続することを通じて、関係機関などとの連携強化に努めています。

7月27日、当局は昨年度に引き続き、愛媛県庁で開催された愛媛県国民保護共同図上訓練に参加しました。

JR松山駅と伊予鉄道松山市駅で国際テロ組織による爆破テロが発生し、多数の死傷者が発生、松山空港で爆発物が発見され、テログループが空港近くで立てこもったとの想定のもと、当局からは連絡員を愛媛県緊急対処事態対策本部へ派遣し、情報の収集・伝達、関係機関との連携要領を訓練、確認しました。



図上訓練の様子

■ ■ 玉野防衛事務所長が講話 ■ ■



6月2日、玉野防衛事務所長 寺地宣明1等海佐が、岡山県郷友会の招きにより、アークホテル岡山(岡山市)において、「海上自衛隊の装備の現状～近年の建造艦船について～」と題して講話を行いました。

海上自衛隊の自衛艦建造の監督、検査を行っている玉野防衛事務所長が自衛艦の完成に至るまでの建造工程を映像を交えて説明を行いました。

参加した岡山県郷友会の会員約40名は、普段聞くことができない建造中の自衛艦の様子などについて、大変熱心に興味深く聴講していました。

■ ■ 岩国市療育センターが開所 ■ ■

岩国市は、同市室の木町の岩国市医師会病院敷地内に「岩国市療育センター」を建設し、7月1日、開所式が行われました。

同療育センターは、訓練器具も充実し、医師や作業療法士などの指導の下、医療、訓練、教育、福祉が一体となり、早い段階からの充実した相談や訓練の実施を通じ、子どもたちの発達促進を目指しています。



岩国市の福田良彦市長は式辞で「再編交付金を活用することにより、待望の岩国市療育センターが完成したことは、大きな喜びであり、当センターが、子どもたちに勇気や希望、そして夢を与える施設となることを祈念します。」と述べ、中国四国防衛局 辰己昌良局長は、「再編交付金が、このような、子どものための療育センターに活用され、岩国市内の医療や福利厚生に貢献することは、望ましいことです。」と挨拶しました。

その後、福田市長や辰己局長、岩国市議議会 松本久次議長ら5名がテープカットをしました。

この整備事業は、再編交付金事業として、約2億1千万円の交付金が活用されています。



光、音、匂い、触覚など感覚に直接訴える刺激を通して、子どもと支援者の緊張が緩和され、コミュニケーションが取りやすくなるというスヌーズレン室も設置されています。

■ ■ 優秀工事等顕彰式 ■ ■

中国四国防衛局は7月13日、平成24年度における優秀工事等の顕彰式を行いました。優秀工事等顕彰制度は、当局が発注する建設工事等において、目的物の出来形や品質の優れたもので、他の規範とするにふさわしいものを選定し顕彰することにより、入札参加者の受注意欲を高め、工事目的物の品質確保を図る等、施設取得の円滑な推進に資することを目的としたものです。



長畑建設工業の皆さん 竹内部長 三笠電機の皆さん

4回目となる今年は、平成23年度に完成した建設工事等の中から、2件の工事が選ばれ、当局の竹内芳寿調達部長から、それぞれの受注者と技術者を顕彰しました。

工事件名 「徳島(21)庁舎新設電気その他工事」
受注者 三笠電機株式会社

工事件名 「岩国飛行場(H22)下士官宿舎ユーティリティ土木その他工事」
受注者 長畑建設工業株式会社

■ ■ 米海兵隊岩国航空基地 地元との交流事業 ■ ■

米海兵隊岩国航空基地では、地元の方々との関係を大切にしており、奉仕活動や文化理解、そして友好親善の交流を図るための活動を1日に1件、年間365件以上実施しています。

7月21日(土曜日)には、海兵第171師団支援中隊が主催したサマーパーティーに児童擁護施設八幡学園の子供達が招待されました。

子供達は岩国基地内のウォーターワークス・プールでのプールパーティーや伝統的なアメリカのバーベキューなど、海兵隊員と共に楽しい1日を過ごしました。



在日米陸軍

第83兵器大隊司令官が交代



6月26日、在日米陸軍第83兵器大隊司令官の交代式が、広島県呉市の同大隊司令部で行われました。

交代式には、小村和年呉市長をはじめ辰己昌良中国四国防衛局長ら多くの関係者が参列し、ジェームス P. フーパー中佐からケビン D. マッカーリー中佐に部隊旗が委譲されました。

ケビン D. マッカーリー中佐は、1984年に対重機甲歩兵部隊の兵士として陸軍に入隊後、第1騎兵師団第27主要支援大隊C中隊長などを歴任し、03年から04年の間、イラクのカタールで「イラクの自由作戦」と「不朽の自由作戦」の支援

のため、南西アジア兵站支援部隊陸軍装備コマンドの戦闘重機大隊の第3科長として従事しました。

その後、第143兵器大隊の副司令官を務めた後、09年から10年の間は、アフガニスタンのカブールにアフガン国民軍統合支援第4部の上級顧問として派遣されました。また、マッカーリー中佐は、エンブリーリドル航空大学で航空宇宙運用学と航空宇宙管理学の修士号を取得し、数多くの勲章も授与されています。

(写真提供：在日米陸軍第83兵器大隊)



人事異動

本年8月の人事異動により新しく中国四国防衛局の幹部ポストに就いた職員を紹介します。



渡邊 浩
1等海佐

防衛補佐官

呉や江田島、下関での勤務経験と、掃海部隊を中心とした部隊経験から、当防衛局管内のうち、特に瀬戸内海周辺は、馴染みの深い地域であります。これまでの部隊等での経験を生かして、適切に局長を補佐できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



松田尚久

企画部長

平成16年から3年間、当局に勤務し、米軍再編にかかる地元説明が強く印象に残っています。米軍再編事業の推進をはじめ、管内9県にかかる防衛施設の安定的な運用に寄与できますよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



福島裕二

調達部長

当局は、防衛省における建設工事関係予算の約4割が集中する繁忙局となっており、地元の皆様のご理解や工事現場におきます地場の技術力などのご支援を賜りながら、より良い施設、災害時等に真に役に立つ施設の整備に努めて参りたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。



櫻井 淳

調達計画課長

米軍再編事業をはじめとした膨大な数の建設工事を目の当たりにし、身の引き締まる思いです。

広島勤務は初めてですが、一日も早く土地勘を身につけるとともに、地元の皆様の声に耳を傾け、円滑な業務の遂行に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



上谷康晴

土木課長

当局管内においては、米軍再編事業を始め、多くの建設工事が行われていますが、飛行場、港湾施設などの土木工事の安全かつ円滑な実施に向けて、課員とともに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集・発行 中国四国防衛局

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30

TEL082-223-7109